

# 29pmG-053

実務実習指導者の能力向上を目指した「病院実習指導者ワークショップ」の有用性  
○山本 仁美<sup>1</sup>, 加藤 裕久<sup>1</sup>, 中村 明弘<sup>1</sup>, 木内 祐二<sup>1</sup>, 向後 麻里<sup>1</sup>, 小林 文<sup>1</sup>,  
中村 明弘<sup>3</sup>, 鈴木 綾子<sup>4</sup>, 八木 仁史<sup>1,4</sup>, 山田 恭平<sup>1,5</sup>, 平藤 彰<sup>1,6</sup>, 村山 純一郎<sup>1,2</sup>,  
山元 俊憲<sup>1</sup>(<sup>1</sup>昭和大葉, <sup>2</sup>昭和大病院薬, <sup>3</sup>昭和大東病院薬, <sup>4</sup>昭和大藤が丘病院薬,  
<sup>5</sup>昭和大横浜市北部病院薬, <sup>6</sup>昭和大歯科病院薬)

【目的】6年制薬学教育の重要なカリキュラムである実務実習では、学生を担当する指導薬剤師および大学教員の指導能力の向上は必要不可欠である。今回、本学学生の病院実習を指導する昭和大学付属病院の薬剤師、大学教員を対象に「病院実習指導者ワークショップ」を開催し、その有用性を検討したので報告する。

【方法】平成24年7月に行われた本ワークショップでは、テーマ1「学生に合わせた個別指導の工夫とは?」、テーマ2「学生に合わせた個別指導方法を身につけるには?」について、病院薬剤師と大学教員が同じグループとなり、ワールドカフェによる情報共有、小グループ討議と全体討論を行った。また、「おとなしい学生」や「積極的すぎる学生」といった問題のある学生と薬剤師の病棟でのロールプレイのビデオを供覧し、学生への接し方、指導方法等について討議し、改善方法を検討した。そして、本ワークショップの有用性を評価するために、ワークショップの前後で、参加者を対象にアンケート調査を行った。

【結果】アンケート調査の結果、学生とのコミュニケーションについて、ワークショップ参加前に「やや不安がある」、「不安がある」と回答した参加者の割合は68%であったのに対し、ワークショップ参加後には「やや不安がある」、「不安がある」と回答した参加者の割合は37%に減少していた。

【考察】実務実習における学生指導は、各指導薬剤師や教員が学生を相手に、日々試行錯誤して行っているのが現状である。本ワークショップのように病院薬剤師と大学教員が一堂に会して情報交換や討論を行うことで、より良い指導方法を模索し、質の高い指導が可能になると考える。